

実践プラン例（1）

「ホッと・HOT」な子どもの居場所づくり

<エピソード>

×市の「元気広場」（放課後子ども教室）の担当をしているAさん。  
 先日の研修で「となりのY市で大学生のサークルが、学童保育のボランティアをしてくれるようになって、今まで参加していなかった子どもたちが参加してくれるようになってとてもよかった」という話をきいてきました。  
 「大学との連携かぁ・・・」と考えていたところ、Z小学校の「元気広場」のリーダーのBさんから、「活動メニューが固定化してきていて、参加する子どもが減ってきているので、新しい取り組みができる若い世代の人を活動に巻き込むいい方法があったら教えて欲しい」と相談がありました。  
 AさんはY市に電話して、大学の担当者を紹介してもらい相談することにしました。

ここが  
ねらい

地域が大学生とタッグを組んで子どもたちをサポートする。

○概要

子どもに関わることに興味のある大学生（サークル・ゼミ等）を「おおさか元気広場」の企画・運営にまきこんでいく実践。この取り組みをとおして、より多様な子どもが集まるための居場所づくりをめざす。

参加者：大学生  
 実施場所：小学校、公民館等社会教育施設



4つのステージ

学ぶ機会をつくる

気づきを促す

情報提供する

できること気になることから始める意識の醸成

取組内容

◆子どもが安全に活動するためにはどのような配慮が必要かを学ぶ

放課後子ども教室の活動に興味のある大学生たちに企画会議に参加してもらい、子どもが安全に楽しく活動するためにはどのような配慮が必要かを学ぶとともに、参加した大学生にアイデア、問題意識など出してもらう。

○学ぶ

「企画を立てるには、様々な子どもに対して配慮が必要なんだなあ」  
 「企画会議に参加して、少しでも役割を与えてもらおうと活動に参加するのが楽しみになるなあ」

参加者の  
気持ちの  
変化

◆活動に参加

「元気広場」での活動を呼びかけ、一緒に遊びます。活動終了後は反省会を行い、活動に参加してみて、子どもに対して気づいたことや疑問などについての意見交換や配慮が必要な子どもに対する活動事例の紹介なども行う。

紹介事例

- ・学習に課題のある子どもについて
- ・発達障がいのある子どもについて
- ・ひきこもりや不登校の子どもについて

○気づく

「配慮が必要な子どもたちってあまり来てなかったようだったなあ。どうしてなんだろう」  
 「課題を抱える子どもと接するのは簡単なことではないんだなあ」

◆様々な取組みに触れる

課題を抱える子どもたちの参加に配慮しながら地域で活動を行っている「元気広場」や公民館の活動を紹介する。

<ここがポイント>

紹介だけではなく、できれば実際に訪問して、現場の声にふれて感じてもらうことが大切。

○知る

「子どものさまざまな課題に向かい合っている地域の人たちと話せて、勉強になったなあ」  
 「誰もが参加できる企画を、教えてもらったことを活かして考えてみようかなあ」

◆企画を立てて取組みを実施

学生たちが、これまで学んできたことをいかし「だれもが参加できる」元気広場での取組みを企画・実施する。

<ここがポイント>

安全面やプライバシーにも配慮した企画となるよう、関係団体や関係者と連携して検討することが大切。

○始める

「できるだけ多くの子どもたちが来てくれるといいなあ」  
 「地域の人がフォローしてくれるし、定期的に活動しようかなあ」  
 「周りにも声をかけてみようかなあ」

つぎへの工夫！ 次の企画に大学生の意見を取り入れたり、役割を任せるなどして、活動へのモチベーションを高める。

つぎへの工夫！ 課題を抱える子どもへの活動を行っている人を講師として招き、活動への興味を高める。

つぎへの工夫！ ビデオレターや手紙などで子どもからの声を大学生に届ける。

関わる団体と  
役割分担の  
イメージ

